

官報

號外

昭和二十年三月十九日

○第八十六回 貴族院議事速記録第十四號

昭和二十年三月十八日(日曜日)午前十一時五分開議

議事日程第十四號

昭和二十年三月十八日

午前十時開議

第一 貴族院令中改正案(政府提出)

第二 戰時森林資源造成法案(衆議院提出)

第三 未成線鐵道佐久間線速成ノ請願

會議

○議長(公爵德川順君) 昨十七日、子爵澁澤敬三君、子爵稻葉正凱君、執レモ子爵議員補選選舉ニ當選セラレマシタ、部屬ハ、澁澤子爵ヲ第七部ニ、稻葉子爵ヲ第八部ニ定メマシタ

○議長(公爵德川順君) 其ノ他諸般ノ報告ハ、御異議ガナクレバ朗讀ヲ省略シマス

(參照)

去ル十四日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表(第七回報告)

昨十七日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

貴族院令中改正案

○議長(公爵德川順君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、貴族院令中改正案、政府提出、會議、此ノ際

官報號外

昭和二十年三月十九日

貴族院議事速記録第十四號

議長ノ報告

貴族院令中改正案

會議

御諮リヲ致シマス、本案ノ審議ハ讀會ノ順序ヲ經ルコトニ致シタイト存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川順君) 御異議ナイト認メマス、小磯内閣總理大臣

貴族院令中改正案

勅旨ヲ奉ジ貴族院ニ提出ス

昭和二十年三月十七日

内閣總理大臣 小磯 國昭

海軍大臣 米内 光政

外務大臣 重光 葵

陸軍大臣 杉山 元

國務大臣 石渡莊太郎

國務大臣 町田 忠治

運輸通信大臣 前田 米藏

司法大臣 松阪 廣政

內務大臣 大連 茂雄

文部大臣 伯爵兒玉 秀雄

農務大臣 緒方 竹虎

農商大臣 島田 俊雄

軍需大臣 吉田 茂

厚生大臣 相川 勝六

大藏大臣 津島 壽一

貴族院令中改正案

貴族院令中左ノ通改正ス

第一條第六號中「北海道ヲ」東京都

北海道樺太」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

七 朝鮮又ハ臺灣ニ在住スル者ニシテ名望アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

第六條中「北海道」ヲ「東京都北海道樺太」ニ改メ、六十六人以内」ヲ「六十七人以内」ニ改ム

第七條 朝鮮又ハ臺灣ニ在住スル滿三十歳以上ノ男子ニシテ名望アル者ヨリ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ十人以上トス

第十一條第二項中「被選舉員」ヲ「任期ノ定アル議員」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第六號ノ改正規定中樺太ニ關スル部分並ニ第六條ノ改正規定中樺太ニ關スル部分及員數ニ關スル部分ハ次ノ通常選舉ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣小磯國昭君登壇)

○國務大臣(小磯國昭君) 只今議題トナリマシタル貴族院令中改正案ニ付提案ノ理由ヲ說明致シマス、今回ノ貴族院令中改正案ハ、別途衆議院ニ提出セラレテ居リマス衆議院議員選舉法中改正法律案ト相俟チマシテ、主トシテ朝鮮及臺灣在住民ノ政治處遇ノ改善ヲ目的トスルモノデアリマス、抑々朝鮮及臺灣ノ統治ノ根本方針ニ關シマシテハ、韓國併合及領土以來終始一貫、一視同仁ノ御聖旨ニ副フト云フコトヲ唯

一ノ念願トシテ參ツタノデアリマシテ、換言致シマスレバ、朝鮮及臺灣ノ同胞ヲシテ、一日モ速カニ眞ノ皇國臣民タルノ實ヲ自覺トヲ持タシムルノ努力ニ盡キテ居ルノデアリマス、而シテ斯クノ如キ統治ノ根本方針ニ基キマシテ、歴代總督以下ガ絶大ノ努力ヲ傾倒致シマシタル結果、是等外地ノ同胞モ宏大無邊ナル皇恩ノ下ニ漸次同化セラレ、皇國臣民トシテノ實質ハ日ヲ逐ウテ向上致シ、其ノ民性愈々陶冶セラレ、今日ニ於キマシテハ、一般狀態ノ進歩ノ跡誠ニ顯著ナルモノアルニ至ツタコトハ、御承知ノ通りデアリマス、同時ニ是等外地同胞ガ綜合行政ノ下ニ或ハ産業ノ方面ニ於テ、或ハ經濟ノ方面ニ於テ、將又文化ノ方面ニ於テ進ダマシタ發展ハ、史上他ニ比類無キ所ト申シテモ過言ニ非ザルモノト信ズルデアリマス、此ノ皇國臣民トシテノ自格及實質ノ向上ト、産業、經濟及文化ノ進展トハ、相俟ツテ朝鮮及臺灣ノ地位ヲ向上シ、帝國ノ重要ナル一環タラシムルニ至ツタノデアリマス、支那等變動發以來、是等同胞ノ戰爭完遂ニ寄與セル物心兩面ノ努力ハ、皇國戦力ノ有力ナル部分ヲ成シテ居リマスルコト、今更贅言ヲ要シマセヌ、更ニ昭和十九年ヨリハ朝鮮ニ、又本年ヨリハ臺灣ニ、ソレハ、徵兵制度ヲ布カレ、是等一般同胞モ内地同胞ト等シク皇軍ノ要員タルコトト相成リマシタ、是ヨリ先、志願兵トシテ、將又軍需品トシテハ、二軍務ニ挺身シ、中ニハ特別攻撃隊ニ參加シ、醜ノ御旗トシテ、盡忠報國、悠久ノ大義ニ生クルノ崇高ナル信念ヲ示ス者モ、多々見ラレルニ至ツタノデアリマシテ、皇化ノ治キ眞ニ恐懼感激ニ堪ヘザル所デアリマス、誠ツテ現

戰局ヲ見マスルニ、皇國ハ正ニ重大ナル隆譽ノ關頭ニ立ツテ居ルノデアリマス、今日此ノ秋ニ當リ、大東亞戰爭ノ完遂ヲ期シマスル爲ニハ、一億同胞ノ總力ヲ結集シ、磐石不動ノ態勢ノ下、皇國維持ニ邁進セネバナリマセヌ、又若クモ皇國臣民タル者、其ノ内地同胞タルト、外地同胞タルト問ハズ、今日只今奮ツテ此ノ苛烈ナル戰列ニ就クノ負荷ニ堪ヘネバナラヌデアリマス、斯ク觀ジマスル時、此ノ際朝鮮、臺灣同胞ニモ國政ノ中樞ニ參ゼシムル云フ至上ノ感激ヲ與ヘ、眞ニ皇國臣民タルノ矜持ヲ以テ其ノ向上致シタル實質、其ノ集積致シタル實力ヲ擧ゲテ、愈々益々豐饒ノ完遂ニ邁進セシムルコトガ肝要デアルト考ヘマス、斯クシテ皇國同胞ノ四分ノ一ヲ占メテ居リマス彼等ノ眞劍ナル心ヲシツカリト把握包容シテ參リマスコトガ、戰爭目的ノ完遂上不可缺要素ノ事柄デアルトヲ堅ク信ジテ疑ヒマセヌ、以上申述ベマシタ如ク考ヘマシタ上カラ、私ハ大命ヲ拜シマシテ以來、是等同胞ノ政治處遇ニ付夙夜懇想ヲ練ツテ參ツタノデアリマスガ、事ハ頗ル重大デアリマス、特ニ慎重ヲ期シ、善ニ官制ヲ以テ朝鮮及臺灣在住民政治處遇調査會ノ設置ヲ仰ギ、廣ク貴衆兩院議員、學識經驗者等ノ中ヨリ有識識達ノ士ヲ選ガ調査會議ヲ求メタノデアリマス、同調査會ニ於キマシテハ、有ラナル角度カラ眞摯且周到ナル研究ヲ遂ゲラレ、過般政府ニ對シ政治處遇ノ具體的方策ニ付答申ヲ寄セラレマシタ、仍テ政府ハ此ノ答申ヲ有力ナル參考トシテ成案ヲ得、貴族院令中改正案及衆議院議員選舉法中改正法律案ノ兩件ニ付、執レモ過般樞密院ノ御諮詢ヲ經マシタノデ、貴族

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

院令中改正案ハ茲ニ本院ニ提出シテ議決ヲ願フコトトシ、又衆議院議員選舉法中改正法律案ハ別途之ヲ衆議院ニ提出スルニ至ツタ次第アリマス、今貴族院令中改正案ノ要旨ニ付説明致シマスレバ、朝鮮及臺灣ニ在任スル滿三十三歳以上ノ男子ニシテ名望アル者ヨリ十八人ヲ限リ七箇年ノ任期ヲ以テ特ニ貴族院議員ヲ勅任セラル、ノ制度ヲ新タニ設クルコトトシ、尙此ノ際朝鮮、臺灣ノ同胞ニ付政治處遇ノ改善ヲ行ヒマスル機會ニ、極大ニ付キマシテモ、多額納税者議員ヲ勅任セラル、ノ途ヲ拓クコトト致シマシタ、以上私ヨリ、貴族院令中改正案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ト、案ノ骨子ニ付テ説明申上ゲマシタ、何卒御審議ノ上速カニ可決セラレムコトヲ切望致ス次第デアリマス

○子爵戸澤正己君 只今日程ニ上リマシタ貴族院令中改正案ノ特別委員ハ二十七名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田章君 賛成
○議長(公爵德川昭順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(公爵德川昭順君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔寺光書記官朗讀〕
貴族院令中改正案特別委員
公爵德川 家正君 侯爵佐佐木行忠君 侯爵淺野 長武君 伯爵溝口 直亮君 子爵伊東 二郎君 子爵西尾 忠方君 子爵松本 友光君 子爵舟橋 清賢君 子爵松平 康泰君 水野銀太郎君 有吉 忠一君 平塚 廣義君 男爵東久世秀雄君 入江 貫一君 男爵今國 國貞君 後藤 文夫君

三井清一郎君 川村 竹治君 松本 泰治君 男爵東郷 安君 男爵矢吹 省三君 男爵伊藤 文吉君 中川 望君 山岡萬之助君 次田大三郎君 結城 安次君 辛原 章三君
○議長(公爵德川昭順君) 小磯内閣總理大臣
〔國務大臣小磯國昭君登壇〕
○國務大臣(小磯國昭君) 私ノ不在中大河内子爵ヨリ御質疑ガゴザイマシタノデ茲ニ御答ヲ致シマス、大河内子爵カラ色々示唆ニ當メル御質疑ガアツタノデアリマスガ、是等ハ將來施策ノ參考ニ資シテ参リタイト存ジマス

○子爵大河内輝耕君 只今ノ御答辯ニ付キマシテ更ニ簡單ニ質問致シタイト思ヒマス
○議長(公爵德川昭順君) 大河内子爵〔子爵大河内輝耕君登壇〕
○子爵大河内輝耕君 懇、御答辯ヲ下サイマシタコトハ誠ニ有難イコトデゴザイマス、殊ニ皆様ヲ御煩ハシテ要約的デゴザイマスガ、如何ニモ御答ガ抽象的デ、モウ少し具體的ノ御答ヲ願ヒタイト存ジマス、何シロ此ノ時局ニ於キマシテ、將來如何ニシテ此ノ時局ヲ解決シテ行クカ、ソレニ付テハ、政治態勢ト云フヤウナコトハ最も必要トシテ考ヘナケレバナラヌコトデゴザイマス、殊ニ今日ノ狀態ヲ見マスト云フト、軍事ノ方ハ誠ニ具合ガ好ク行ツテ居ル、皇軍ノ必勝ハ疑ヒマセヌガ、外ノ方ガドウモ之ニ伴ハナイ嫌ヒガアル、何故カト云フト、ソレハ當然サウアルベキコトナンデ、政治ノ中心ガ片寄ツテ居ル、個人デ言ヘバ偏食シテ居ル、唯一部ノ事シカ知ラナイト云ツテハ申

譯ナイケレドモ、知ラナイト云フコトハ申上ゲナイ、唯一部ノ事シカ主ニ見ナイハ人ニ依ツテ政治ノ中心ガ出來テ、其ノ爲ニ斯ウ云フ風ニナツテ居ル、モウ少し立場ヲ廣ク、一方ニ片寄ラナイト云フ風ニ政治ノ中心ガ改良サレテ來レバ、施政モ自ラ今日ノヤウニ片寄ラナイ、軍事ハカリ成功スルケレドモ、外ノモノハ之ニ伴ハナイト云フヤウナ變ミハナクナルドラウト存ジマス、其ノ點ニ付テ御答ガアレバ大體結構ト存ジマス
〔國務大臣小磯國昭君登壇〕
○國務大臣(小磯國昭君) 過日大河内子爵ヨリ御質疑ニナリマシタ今後施策ヲ進メテ行ク上ノ御要望、御注意ト致シマシテ、政治態勢ト、更ニ密接ニ協力吻合ラシテ、廣キ觀點カラ施策ヲ先手ヲ打ツテ進メテ行ケト云フコトト、サウシテ尙、人ヲ用ル際ニハ新進氣鋭ナル者ヲ重要視セヨト云フ二點デアツタト拝察致シマス、之ニ對シテ茲ニ一々具體的ニ申上ゲル譯ニハ参リマセヌガ、先刻モ申上ゲマシタ如ク是等ノ兩點ニ關シマシテ、今後ノ施策ニ十分注意致シテ参リタイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○議長(公爵德川昭順君) 日程第二、戰時森林資源造成法案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長池田侯爵
戰時森林資源造成法案
右別冊ノ追修正議決セリ依テ及報告候也
昭和二十年三月十二日
委員長 侯爵池田 宣政
貴族院議長公爵德川昭順殿

第一條 政府ハ大東亞戰爭ニ際シ森林資源ノ戰力化ノ徹底之ヲ造成ノ確保ヲ期スル爲メ命令ノ定ムル所ニ依リ農林中央金庫ヲシテ○森林資源造成證券(以下證券ト稱ス)ヲ發行セシムルモノトス

第二條 農林中央金庫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ森林資源造成ノ爲ニ要スル費用ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付シタル森林所有者ニ對シテ其ノ金額ノ倍額ニ相當スル額面ノ證券ヲ交付スベシ

第三條 政府ハ森林ノ伐採其他必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ森林所有者ニ對シテ森林資源造成ノ爲ニ要スル費用ノ二分ノ一ヲ農林中央金庫ニ納付シ證券ノ交付ヲ受ケベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四條 證券ノ所有者ハ證券ニ記載セラレタル森林資源造成ニ必要ナル行爲ヲ爲シ命令ノ定ムル所ニ依リ農林中央金庫ニ對シテ該證券ノ額面金額ノ交付ヲ求ムルモノトス

第五條 證券ノ所有者ハ大東亞戰爭終了後ニ於テ政府ニ對シテ證券ヲ呈示シ森林資源造成ノ爲ニ必要ナル行爲ヲ求ムルコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テ政府ハ森林資源造成ニ必要ナル行爲ヲ爲スルニ要スル費用ノ支拂其他命令ヲ以テ定ムル事項ヲ農林中央金庫ニ對シテ指示スベシ

第七條 政府ハ第一條ノ規定ニ依リ森林所有者ニ對シテ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ノ發行シタル農林中央金庫ニ對シテ第一讀會ノ續ニ依リ徵收ノ額面金額ノ二分ノ一ノ金額ヲ交付スルモノトス

第八條 證券ハ記名式トシ森林ノ土地ノ所有權又ハ收益權ノ一項ニ對シテ使用又ハ收益權ノ爲メ、權利ノ移轉アリタル場合ニ於テハ權利ノ共同ニシテ非ズレバ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第九條 證券ノ交付アリタル後該森林ノ土地ノ所有權又ハ收益權ノ一項ニ對シテ使用又ハ收益權ノ爲メ、權利ノ移轉アリタル場合ニ於テハ權利ノ共同ニシテ非ズレバ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第十條 證券ノ所有者タル森林所有者ガ森林ノ土地ニ付使用又ハ收益權ヲ爲スルニ要スル費用ノ支拂其他命令ヲ以テ定ムル事項ヲ農林中央金庫ニ對シテ指示スベシ

第十一條 政府ハ第一條ノ規定ニ依リ森林所有者ニ對シテ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ノ發行シタル農林中央金庫ニ對シテ第一讀會ノ續ニ依リ徵收ノ額面金額ノ二分ノ一ノ金額ヲ交付スルモノトス

第十二條 證券ハ記名式トシ森林ノ土地ノ所有權又ハ收益權ノ一項ニ對シテ使用又ハ收益權ノ爲メ、權利ノ移轉アリタル場合ニ於テハ權利ノ共同ニシテ非ズレバ之ヲ讓渡スルコトヲ得

ノ權利ヲ酌定セムトスルコトキハ其ノ證券ノ共同ニテ之ヲ行フベシ

第九條 國庫其他公共ノ必要ニ因リ森林ノ全部又ハ一部ヲ爲スコト能ハザル森林ノ土地ガ森林資源造成ノ目的ニ至ラサル場合ニ於テハ以テ定ムル場合ニ二供スルコト能ハザルニ至リタル於テハ農林中央金庫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ該森林所有者ニ對シテ之ヲ返還スルモノトス

第十條 證券ハ大東亞戰爭終了後二十年ヲ以テ其ノ效力ヲ失フ此場合ニ於テハ第二條及第三條ノ規定ニ依リ納付シタル金額ハ之ヲ其ノ納付者ニ返還ス

第十一條 證券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第十二條 本法ニ規定スルモノノ外證券ノ發行其他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔侯爵池田重政君登壇〕

○侯爵池田重政君 只今議題ト相成リマシタ戰時森林資源造成法案ノ特別委員會ニ於ケル審査ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本法案ハ衆議院提出ニ係ル議案デアリマシテ、之ニ付テ其ノ趣旨並ニ内容ヲ極ク簡單ニ申上ゲマスレバ、日支事變以來戰爭ガ激烈ニナツタ參リマシテ、森林資源ハ戰力増強上絕對不可缺ノ資材ト致シ、重要ナル役割ヲ演ジテ居ルノデアリマシテ、此

ノ際全森林ヲ根コソギ職員ヲ行フベキ秋デアリマス、併シナガラ木ヲ伐リマスト其ノ跡ノ森林造成ニ大ニ影響ガゴザイマス、跡地ノ荒廢ニ對シ、資源ノ培養ト國土ノ保全ヲ圖リ、森林所有者ガ安心シテ木材ヲ產出シ、同時ニ森林經營ニ對スル不安ノ念ヲ取除キ、植伐不均衡ヲ是正セシメ、森林資源ノ戰力化及之ガ造成ノ確保ヲ期スルヲ目的トスルモノデアリマス、是レ即チ今次戰爭ノ完勝ニ資スルコト共ニ、明日ノ生産増強ニ備ヘタイト云フノデアリマス、此ノ内容ト致シマシテハ、農林中央金庫ヲシテ森林資源造成證券ト云フモノヲ作ラセマシテ、造林ニ當リ必要ナル金額、即チ造林費ノ半額ヲ森林所有者ガ出し、ソレニ對シ政府モ是同額ノ金額ヲ出シマシテ、森林資源造成證券ヲ森林所有者ニ交付致シテ置キ、戰時下勞務不足其ノ他直接ニ造林モ出來ル場合モアリマス爲ニ、將來適當ノ時機ニ此ノ證券ノ金額ヲ資金ニ換ヘマシテ、勞務ノ機動性ヲ發揮セシメ、適時ニ造林ヲスルヤウ其ノ資金ヲ豫メ用意致シテ置クノデアリマス、從ヒマシテ林業家ニ取リマシテハ、從來ノ造林補助ト較ベマシテ割ノ宜イ助成ヲ受クル爲ニ安心シテ造林ガ出來、又政府ヨリスレバ伐採ニ依ツテ得タル收入ヲ他ニ散逸スルコトナク、確實ニ山ニ還元セシメ森林資源ノ保護ヲ確保シ、國土ノ保安ヲ期セシムルコト共ニ、一種ノ貯金ヲナサシムルコトモ相成リ、時局下至極適當ナル法案ト認メラル、次第デアリマス、委員會ハ去月二月七日、第一回ヲ開キマシテ、二月二十八日、三月十二日ト三回ニ亘リマシテ開會致シマシタ、尙此ノ外懇談會モ四回開會キマシテ、提案者側ノ意圖等ヲ質シマシタ、此ノ間始終委員各位ハ固ヨリ政府當局ニ於ケレマシテモ、誠ニ深切ニ誠意アル御答、御説明ヲ與ヘラレマシタ、最初ニ本法案ニ對スル政府ノ御意圖ヲ伺ヒ、然ル後ニ活潑ナル意見ノ開陳ト質疑ノ應答ガ重ネラレタノデゴザイマス、當局ヨリハ政府ガ今迄執リ來ツタ森林行政、或ハ豫算關係ト此ノ度ノ法案トノ關係等ニ付キマシテ、詳細ナ御説明モゴザイマシタ、第一ニ本案ニ對スル政府ノ御考ハドウカト云フ間ヒニ對シマシテ、政府ハ本案ノ趣旨ハ大體成デアルガ、之ガ實行ニ當リ原案ノ儘デハ困難モアリ、目下研究中デアルトノ御答ガアリマシタ、委員會モ此ノ御答ヲ承致シマシテ、當局ノ御意圖ガ大體決定致シマシタ、一時委員會ノ開會ヲ延シマシテ、其ノ間懇談會ヲ數回開キ、提案者側ノ意圖ヲ聽キ、政府ノ御考モ御伺ヒ致シタ次第デアリマス、而シテ去月三月十二日開會致シ、審議ヲ進メテ參リマシタ、本案ノ審議ニ當リ委員會ニ於テ最も議論ノ中心ト認メタル事項ガ數點ゴザイマス、第一、主ナルモノヲ申上ゲマス、一、森林造成證券ノ性質ハ如何ナルモノデアラルカト云フ點、一、森林造成證券發行限度ヲ法文ニ明記スルヤ否ヤノ點、一、本法ヲ適用サル、時機ニ付テハ、證券ノ交付ヲ受ケタル者ガ造林ヲ完了スベキ年限ノ點、一、造林費ノ内容ハ如何、一、政府ニ代執行セシムルノ可否、一、分收歩合ヲ定メテ政府又ハ公共團體等ニ代執行セシムルコトノ可否、一、政府ノ負擔額ヲ造林費ノ二分ノ一トスルノ點、一、本法ノ運営上根本トナルベキ必要事項ノ決定ニ當リテハ、何成アルモ委員會ニ諮リ、其ノ時ノ際

際ニ適應シテ遺憾ナカラシムルコトヲ期スベシトノ點、是等ノ諸點ニ付キマシテ、各種ノ意見ヲ檢討致シ、政府ノ意ノ在ル所モ十分察知出來マシタル結果、原案ノ各條項ニ互リ相當ノ修正ヲ要スルコトト認メラレマシタル爲ニ、委員會ハ五名ノ小委員ヲ選定致シ、小委員會ニ付託致スコトニ致シ、適當ナル修正案作成ノ爲ニ更ニ審査ヲ御願ヒ致シマシタノデゴザイマス、小委員會ハ以上ノ諸點ニ付、慎重審議ノ結果、提案者側ノ趣旨ヲ尊重シ、且政府ノ意圖ヲモ參酌サレマシテ、修正ノ上小委員長ヨリ報告ガアリマシタ、ソコデアリマス、小委員長ガ御報告ニ相成リマシタ所ノ修正案ヲ議題ト致シマシテ、慎重ニ審議ヲ遂ゲマシテ、討論ヲ經テ採決ノ結果、總テ小委員長報告ノ通り全會一致ヲ以テ可決スベキモノナリト議決致シタ次第デアリマス、茲デ御手許ニ配付サレタアリマス議案ノ内容ニ付重要ト思ハレル點ヲ、前ニ述ベマシタル順ニ依リマシテ申上ゲマス、第一、森林造成證券ノ性質デアリマスガ、此ノ證券ハ所謂有價證券、又ハ一般ノ融通證券トハ全ク異リ、造林ノ爲ノ證券デアツテ、預金證書ノ如キモノト見ルベキモノデアリマス、第二、森林造成證券發行限度ヲ法文ニ明記スルヤ否ヤノ點ハ、是ハ記載致スコトトシ、今回ハ三箇年ヲ區切り三箇年トスルコトニナリマシタ、將來三箇年不足ヲ生ズル時ハ、更ニ法律ヲ改正シテ増額スルコトモ得ルノデアリマシテ、是ハ政府モ同意シタノデアリマス、第三、本法ヲ適用セラルベキ伐採森林ハ何時ヨリ伐採セラレタルモノトスルカノ點ハ、委員會トシテ昭和十六年十二月八日以降ヨリ適用スルヤウ強イ希望ガゴザ

イマシタ、唯之ガ決定ハ勅令ニ依ルコトト致シタノデアリマス、第四、證券ノ交付ヲ受ケタル森林所有者ガ造林ヲ完了スベキ年限ノ點ハ、人工造林ノ場合ト天然造林ノ場合トヲ問ハズ、交付ノ日ヨリ十五箇年ヲ最長期間トシ、此ノ内ニ手入期間五箇年ヲ包含スルノデアリマス、第五、造林費ノ内容ハ新植費ト手入費ヲ含ムコトトシ、其ノ金額ハ一町步當ノ新植費二百十圓、手入費百四十圓、計三百五十圓ヲ基準トシタルデアリマス、即チ此ノ五割ガ助成サルルコトニナルノデアリマス、從來ノ豫算ニ依リ造林助成ハ、新植費ダケガ認メラレタツテ、一町步當リ百二十圓トシ、之ニ對シ其ノ四割ノ補助ニ過ギナカツタノデアリマス、第六、森林所有者ガ自ら造林ヲ爲ス代リニ、證券ヲ呈示シテ政府ニ對シテ造林ヲ求ムルコトハ、原案ニハ之ヲ認メテアリマシタガ、本委員會ニ於テハ、是ハ却テ林業家ノ傳統的愛林精神ニ背反スル嫌ヒモアリ、造林意欲ヲ阻害シ、加之政府ニ對シテ依賴シ過グルコトモ相成リ、宜シクナイト認メタルデアリマシテ、原則トシテハ成ルベク林業家自身ニ造林サセルコトト致シタルデアリマス、是ハ第五條ヲ修正致シマシタル骨子デアリマス、第七、政府又ハ公共團體ガ代ツテ造林スル場合ニ、森林所有者トノ間ニ分收計畫ヲ定メテ造林スルコトハ、政府ト民間トノ間ニ債權債務ノ關係ガ相當長期間ニ亘ツテ殘サレ、コトト相成リ、望マシクナイト考ヘラレマシタ、第八、政府ノ負擔額ヲ造林費ノ二分ノ一トセル點ハ、伐採跡地ノ造林ヲ容易ナラシムル爲ニ、從來ノ助成率以上ノモノト爲シタル趣旨デゴザイマス、第九、本法ノ運営上根本トナルベ

シタ、此ノ間始終委員各位ハ固ヨリ政府當局ニ於ケレマシテモ、誠ニ深切ニ誠意アル御答、御説明ヲ與ヘラレマシタ、最初ニ本法案ニ對スル政府ノ御意圖ヲ伺ヒ、然ル後ニ活潑ナル意見ノ開陳ト質疑ノ應答ガ重ネラレタノデゴザイマス、當局ヨリハ政府ガ今迄執リ來ツタ森林行政、或ハ豫算關係ト此ノ度ノ法案トノ關係等ニ付キマシテ、詳細ナ御説明モゴザイマシタ、第一ニ本案ニ對スル政府ノ御考ハドウカト云フ間ヒニ對シマシテ、政府ハ本案ノ趣旨ハ大體成デアルガ、之ガ實行ニ當リ原案ノ儘デハ困難モアリ、目下研究中デアルトノ御答ガアリマシタ、委員會モ此ノ御答ヲ承致シマシテ、當局ノ御意圖ガ大體決定致シマシタ、一時委員會ノ開會ヲ延シマシテ、其ノ間懇談會ヲ數回開キ、提案者側ノ意圖ヲ聽キ、政府ノ御考モ御伺ヒ致シタ次第デアリマス、而シテ去月三月十二日開會致シ、審議ヲ進メテ參リマシタ、本案ノ審議ニ當リ委員會ニ於テ最も議論ノ中心ト認メタル事項ガ數點ゴザイマス、第一、主ナルモノヲ申上ゲマス、一、森林造成證券ノ性質ハ如何ナルモノデアラルカト云フ點、一、森林造成證券發行限度ヲ法文ニ明記スルヤ否ヤノ點、一、本法ヲ適用サル、時機ニ付テハ、證券ノ交付ヲ受ケタル者ガ造林ヲ完了スベキ年限ノ點、一、造林費ノ内容ハ如何、一、政府ニ代執行セシムルノ可否、一、分收歩合ヲ定メテ政府又ハ公共團體等ニ代執行セシムルコトノ可否、一、政府ノ負擔額ヲ造林費ノ二分ノ一トスルノ點、一、本法ノ運営上根本トナルベキ必要事項ノ決定ニ當リテハ、何成アルモ委員會ニ諮リ、其ノ時ノ際

キ必要事項ノ決定ニ當リテハ、權威アリ委員會ニ諮リ、其ノ時ノ實際ニ適應シテ遺憾ナカラシムルコトヲ期スベシトノ點ハ、委員會ノ構成並ニ權限ニ付テハ勅令ニテ決定スルヲ適當ト認メタノデアリマス、大體以上デアリマスガ、次ニ本案實施ニ付質疑應答中特ニ重要ト認メラレ爾諸點ヲ申上ゲマス、證券ノ交付ヲ受クル爲ニ林業家が造林費ノ二分ノ一ノ金額ヲ農林中央金庫ニ拂込ミマシタル時ハ、其ノ人ノ負擔スベキ戰爭貯金、或ハ又國債割當等ト同一取扱トセラレタシトノ希望ガアリマシタ、農商大臣ハ之ヲ諒トセラレタノデアリマス、又第八條ノ「造林行爲ノ全部又ハ一部ヲ爲スコト能ハザルニ至リタル場合」トアルガ、是ハ造林行爲ノ全部又ハ一部ヲ爲サズト云フ場合ヲモ包含ス、トノ廣イ意味ニ解釋致シタイ、此ノヤウナ委員ノ希望ニ對シマシテ、政府ハ左様取計ヲフトノ御答デゴザイマシタ、最後ニ、委員會ニテ決定セル本案ガ、兩院ヲ通過セシ場合ハ、政府ハ本案ノ内容ヲ實施スル爲ニ、十分ナル熱意ヲ以テ努力サレタイ、トノ希望ニ對シマシテ、農商大臣ハ、本法案ハ衆議院提出デアルガ、貴族院ニ於ケレテモ熱心ニ御検討下サレ、此ノ程度ノ修正案ガ出來マシタコトハ結構デアリマス、衆議院ニ於テ同意シタル場合ハ、政府トシテ成ルベク速カニ公布ノ手續ヲ執リ、積極的ニ本法ノ效果ヲ擧グルヤウ努力ヲ致ス、トノ御答ガゴザイマシタ、此ノ他ニモ種々ノ點ニ付テ御質疑モゴザイマシタガ、省略致シマス、討論ノ際、一委員ヨリ、我が國ノ山林ハ日支事變以來、荒廢殊ニ甚ダシク、之ガ對策ニ付大イニ憂慮シテ居ツタ、然ルニ本案ハ、恰モ之ニ對スル適

切ナル解決ヲ與フベキ法案デアルニ依リ、之ガ成立ノ希望ヲ致スト共ニ、本法ノ實施ニ當リ政府ハ十分ナル努力ヲ以テ當ラレタイ、尙第二條第二項ノ末項ニ依リ、命令ヲ以テ本案ヲ適用スベキ森林ノ伐採時期ヲ定ムルニハ、昭和十六年十二月八日以降、政府ノ割當又ハ勸奨等ニ基イテ伐採セシモノヨリ適用スルコトトセラレタイトノ希望ヲ附シテ、本案ニ賛成スルトノ御意見ノ開陳ガゴザイマシタ、又他ノ委員ヨリモ同様ナ意見デアル旨ノ發言ガアリ、御贊成ガアリマシタ、終リニ委員長ト致シマシテ一言申上ゲマスガ、第二條第二項ノ點ニ付テハ只今御報告致シマシタ通り、特ニ運用ニ當リ政府ハ十分委員會ノ希望ノアリマシタルコトヲ尊重セラレマシテ、御實行ノ程ヲ切ニ希望致シマス、以上ヲ以テ甚ダ簡單ナガラ御報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川昭順君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵徳川昭順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス

員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵徳川昭順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川昭順君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川昭順君) 本日ハ是ニテ延會致シタイト存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス、次會ノ議事日程ハ決定次第稟報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ之ニテ散會致シマス

午前十時四十一分散會